

(開会挨拶)

## 【2040年に向けた健生財団の新たな行動指針】

第31回アドバイザー全国大会  
2024年11月9日(土曜日)

一般財団法人 健康・生きがい開発財団  
常務理事 松浦 隆志

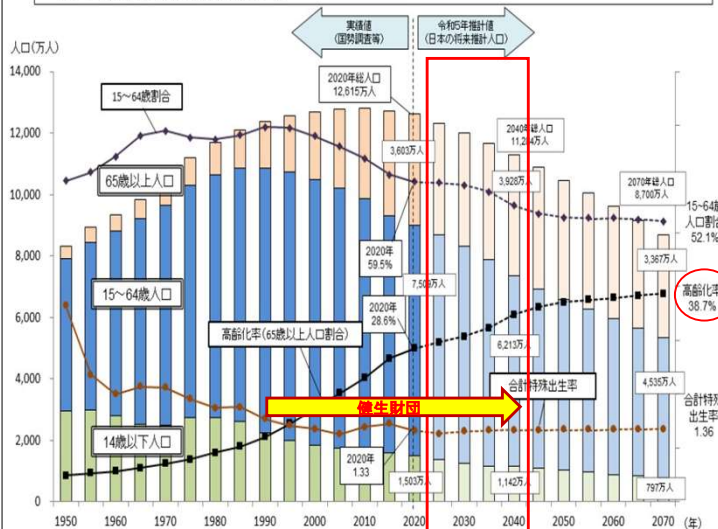
2024/11/9

一般財団法人 健康・生きがい開発財団

1

### 日本の人口の推移

○日本の人口は近年減少局面を迎えている。2070年には総人口が9,000万人を割り込み、高齢化率は39%の水準になると推計されている。



(出所) 2020年までの人口(16歳未満「国勢調査」、合計特殊出生率「厚生労働省」人口動態統計)、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」(出生中位(死亡中位)増計) 一般財団法人 健康・生きがい開発財団

### 少子高齢化関連の主要指標

人口⇒万人	2023	2040	増減
総人口	12,435	11,284	1,151
高齢者数	3,622 (29.1%)	3,928 (34.8%)	306
*75歳↑	2,007 (16.1%)	2,227 (19.3%)	220
平均 寿命	81.05歳 87.09歳	83.57歳 89.63歳	2.52 2.54
100歳人口	92千人	300千人	3倍
15~64歳	7,395 (59.5%)	6,213 (55.1%)	1,182
0~14歳	1,417 (11.4%)	1,142 (10.1%)	275
出生者数	727千人	—	

\*出典：令和6年度高齢社会白書(厚労省)

## 高齢者（シニア）の生き方・役割に関する提言（辻理事長講話より抜粋）

### （１）超高齢人口減少社会の到来

- ①人生100年時代 ⇒ 個人が100年生きられる可能性を持つ時代
- ②社会の大きな変化 ⇒ 高齢者が個人・世代として“どう生きるか”考える時代
- ③人口逆ピラミッド ⇒ 高齢者が支える側に移らないと社会が成り立たない時代

### （２）社会から期待される高齢者（シニア）生き方・役割

- ①高齢者の生き方 ⇒ 未知の社会に向けて高齢者自身が“生き方を変える”模範を示し、次世代に背中を見せる。
- ②期待される役割 ⇒ 就労（生きがい就労）、地域共生社会づくりを担う一員
- ③期待される効果 ⇒ 個人(QOL向上) + 社会(労働力・経済成長・社会保障制度)

### （３）健生財団の活動

- ①A Dの組織を中心に実践と研究を深めていく必要がある
- ②日本の「健康生きがいづくり」のより良いあり方の追求が大事である

2024/11/9

一般財団法人 健康・生きがい開発財団

3

## 2040年に向けた健康・生きがい開発財団活動の展望（新たな行動指針）

### ■活動の基本

各地の健康生きがいづくりアドバイザー協議会活動を基本に置き、各協議会が連携し日本の「健康生きがいづくり」のより良いあり方を追求しつつ前進する。

### ■活動の柱

- ①健康生きがいづくりアドバイザーの養成と協議会組織の強化
- ②フレイル予防の推進
- ③100歳大学の普及
- ④時代の変容を捉えた弛まざる研究活動

### ■留意点

各協議会が連携し主体的な活動力の強化することに取り組む一方、財団の財政力の強化が必要であり、フレイル予防の普及啓発やデータ関連事業のさらなる展開に取り組む必要がある。

（令和6年度「第30回A D全国大会」辻理事長講話より）

4

## 令和6年度の重点取り組み事項

事業活動事項	取組内容	目的
AD養成事業	AD養成テキスト改訂（2025年度から使用） <b>AD活動支援講座（4回）参加者30～40名</b>	規約・データ類更新 実践講座・AD活動PR
フレイル予防事業	協議会及びADの地域での啓発活動推進 <b>フレイル予防推進会議設立（7月）</b>	一般市民への啓発活動 全国への本格的展開
100歳大学普及事業	勉強会での実施事例研究とノウハウ共有化 <b>100歳大学基本理念を活かした多様なモデル</b>	自治体アプローチ策 多様な地域ニーズ対応
研究会活動	<b>50代からのシニアライフ生き方研究会</b> 新研究会Ⅱ（多世代交流、ネット交流）	現役世代の研修・学習 仲間づくり・つながり
ブロック会議	広域ブロック会議開催（東日本、西日本）	相互支援・連携強化
AD全国大会	<b>健康生きがい学会との合同開催</b>	学び・考え・活動する
広報	<b>財団HP⇒情報充実、会員専用ページ設置</b>	PC/SP利用者拡大対応
新3か年計画	2040年に向けて持続可能な財団・協議会の 組織運営体制の検討（2年目）	健康生きがいづくり活動の更なる普及拡大

2024/11/9

一般社団法人 健康・生きがい開発財団

### トピックス

フレイル予防推進会議の概要(2024.7.24)

第1回フレイル予防推進会議資料

## 1 フレイル予防推進会議の概要

▶ 目的 各界の代表者が集う会議を設置し、各界各層に向けてフレイル予防のポピュレーションアプローチの啓発と普及の活動を全国展開する。

▶ 発足 2024年7月24日

▶ 主な会員  
 自治体 神奈川県、山梨県、徳島県、高知県、福井県、八王子市、西東京市、平塚市、生駒市、仁淀川町他、約30自治体  
 企業：イオン（株）キュービー（株）、（株）マルタマフーズ他10社強  
 学術関係：辻哲夫、飯島勝矢、神谷哲朗他8名  
 事務局：（一財）医療経済研究・社会保険福祉協会（理事長：辻哲夫氏）  
 別途定めるアドバイザー委員会

▶ 体制図



## 2 フレイル推進協議会 今後の活動予定

フレイル予防のポピュレーションアプローチに関する

- ① 三点的資料による啓発活動  
(三点的資料：住民啓発パンフレット・説明問答集・市町村向け基本問答集)
- ② 更なる効果的な手法の開発と普及活動  
(後期高齢者質問票を活用した通いの場等での住民主体のフレイル予防の手法の開発)
- ③ その他モデル事業の効果の計測 等  
(フレイル情報の収集、解析等のシステム開発、効果計測等の実践的な研究)

第2回フレイル予防推進会議・セミナー2024.11.22

【オブザーバー(協力関係者)】



6

## 【何かをさせていただけるのは、あなたが必要とされている証】

【人生100年時代 これからのセカンドライフを真に価値のあるものにするために、これまで自分を育ててくれた社会に対して「布施行」、すなわち「施し」をすることです。恩返しをすることです。特に、自らの心で施しをする「無畏施」その代表が【無財の七施】である。  
(仏教の教え)

### 【無財の七施】

- ①眼施（げんせ） 常にやさしい眼差しを持って人に接するということ
- ②和顔施（わげんせ） いつもにこやかな顔で人に接するという施し
- ③言辞施（ごんじぜ） やさしく、温かい言葉を投げかけるいう布施
- ④身施（しんせ） もしも自分の身体でできることがあれば、できる限り奉仕をすること
- ⑤心施（しんせ） 心を施すこと。つまりは他人のために心を配るということ
- ⑥床座施（しょうざせ） 自分の席や場所を譲ってあげるという布施
- ⑦房舎施（ぼうしゃぜ） 自分が住んでいる家や、自分がいる場所を誰かに提供すること



【出典：禅が教える人生の答え(PHP文庫) 栴野俊明(曹洞宗徳雄山建功寺住職)

2024/11/9

一般財団法人 健康・生きがい開発財団

7

【メモ】

2024/11/9

一般財団法人 健康・生きがい開発財団

8